

感染症内科

上平朝子

当院は平成9年4月にエイズ治療の近畿地方ブロック拠点病院に選定され、診療、研究、情報発信、教育研修の4つの機能を求められている。当院のHIV患者数は、毎年1年間で200名前後の新規患者が受診し、平成29年2月末現在、当院のHIV感染症累計患者数は約3,200名以上、入院累積患者数は4,200名以上となり、外来・入院ともに診療患者数は年々増加している。当科では、HIV感染症に関する多様なニーズに対して、医師、看護師、薬剤師、カウンセラー、情報担当官、ソーシャルワーカーらでチーム医療を実践している。現在の診療内容は、HIV感染症が全体の9割近くを占めており、その他は免疫疾患、一般感染症（一類、二類を除く）などである。

「主な診療、研究」

日和見感染症に対する治療や予防の進歩と抗HIV療法の確立によってエイズによる死亡者数は減少した。当科では、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症、カンジダ症、クリプトコッカス髄膜炎、非結核性抗酸菌症など多彩な病原体による日和見感染症の診療を行っている。抗HIV療法では、最新の治療を提供し、9割以上の患者で治療が奏効している。H28年度の初回治療レジメンで最も多いのは、昨年度と同様、一日一回のインテグラーゼ阻害薬を含む合剤であった。抗HIV療法は、患者の予後を改善し、HIVの流行を抑えることが報告され、全ての人にできるだけ早く治療を開始する重要性が高まっている。また、各種合剤の開発によりSTR（single tablet regimen）が可能となり、服薬の負担も軽減されるようになってきた。しかし、長期間にわたり正確な内服を継続しなければならない抗HIV療法の身体的、精神的負担、HIV関連以外の悪性腫瘍合併例の増加、糖尿病や心・腎合併症など生活習慣病への対応、長期予後の改善に伴い長期療養先の確保など課題も続いている。また、抗HIV薬の治療効果や副作用の調査及び検討、HIV関連の悪性腫瘍や神経疾患、免疫再構築症候群、急性HIV感染症などの難治性病態についての臨床研究や症例検討、ウイルス肝炎（HCV、HBV）とHIVとの重複感染についての症例研究などを行い、厚生労働科研などを通じ、多施設との共同研究にも参加している。また、日本エイズ学会や日本感染症学会を始めとした多くの学会における発表や、論文発表を行っている。

「情報発信、教育研修」

HIV感染症は、病原体も感染経路も予防方法も明らかであるにも関わらず蔓延している。日本では、30～40歳代の若者を中心に患者が多くみられている。HIV感染症の早期発見と予防のために、病気についての正しい知識を幅広く提供している。現在、ブロック拠点病院である当院にHIV感染症患者が集中していることから、中核拠点病院を始めとした各拠点病院と連絡会議や研修会を行い、連携を強化している。HIV診療のレベルの向上や人材育成を図るために、専門医師養成実地一ヶ月研修（講義・病棟実習）、各種専門職研修など多数の研修会を実施している。また、各種マニュアルや冊子を作成し配布している。HIVエイズ先端医療開発センターのホームページからも、最新の情報発信を行っている

(<http://www.onh.go.jp/khac/>)。さらに、HIV患者の長期療養や一般医療の必要性も高まってお

り、地域の医療機関や訪問看護との連携も積極的に行っている。症例相談、針刺し等の職務感染防止への対応、生活療養支援など、さまざまな相談にすみやかに対応できる体制を目指している。

【2016年度 研究発表業績】

A-0

Kojima Y, Iwasaki N, Yanaga Y, Tanuma J, Koizumi Y, Uehira T, Yotsumoto M, Ajisawa A, Hagiwara S, Okada S, Nagai H : End-of-life care for HIV-infected patients with malignancies: A questionnaire-based survey. *Palliat Med.* 2016 Oct;30(9):869-76

Ikuma M, Watanabe D, Yagura H, Ashida M, Takahashi M, Shibata M, Asaoka T, Yoshino M, Uehira T, Sugiura W, Shirasaka T : Therapeutic Drug Monitoring of Anti-human Immunodeficiency Virus Drugs in a Patient with Short Bowel Syndrome. *Intern Med.* 2016;55(20):3059-3063. Epub 2016 Oct 15.

Akita T, Tanaka J, Ohisa M, Sugiyama A, Nishida K, Inoue S, Shirasaka T : Predicting future blood supply and demand in Japan with a Markov model: application to the sex- and age-specific probability of blood donation. *Transfusion.* 2016 Sep 5. doi: 10.1111/trf.13780. [Epub ahead of print]

Koizumi Y, Uehira T, Ota Y, Ogawa Y, Yajima K, Tanuma J, Yotsumoto M, Hagiwara S, Ikegaya S, Watanabe D, Minamiguchi H, Hodohara K, Murotani K, Mikamo H, Wada H, Ajisawa A, Shirasaka T, Nagai H, Kodama Y, Hishima T, Mochizuki M, Katano H, Okada S : Clinical and pathological aspects of human immunodeficiency virus-associated plasmablastic lymphoma: analysis of 24 cases. *Int J Hematol.* 2016 Dec;104(6):669-681. Epub 2016 Sep 7

Miyazaki N, Sugiura W, Gatanaga H, Watanabe D, Yamamoto Y, Yokomaku Y, Yoshimura K, Matsushita S : Japanese HIV-MDR Study Group. High antiretroviral coverage and viral suppression prevalence in Japan: an excellent profile for downstream HIV care spectrum. *Jpn J Infect Dis.* 2016 Jun 30. [Epub ahead of print]

Sugimoto A, Nakazuru S, Sakakibara Y, Nishio K, Yamada T, Ishida H, Yajima K, Uehira T, Mori K, Mita E : Squamous cell carcinoma of the anal canal treated with chemoradiotherapy in a patient with HIV. *Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi.* 2016;113(2):254-62. doi: 10.11405/nisshoshi.113.254.

Yamamoto N, Kawahara R, Akeda Y, Shanmugakani RK, Yoshida H, Hagiya H, Hara N, Nishi I, Yukawa S, Asada R, Sasaki Y, Maeda K, Sakamoto N, Hamada S, Tomono K : Development of selective medium for IMP-type carbapenemase-producing Enterobacteriaceae in stool specimens. *BMC Infect Dis.* 2017 Mar 24;17(1):229. doi: 10.1186/s12879-017-2312-1.

Watanabe D, Yamamoto Y, Suzuki S, Ashida M, Matsumoto E, Yukawa S, Hirota K, Ikuma M, Ueji T, Kasai D, Nishida Y, Uehira T, Shirasaka T : Cross-sectional and longitudinal investigation of human herpesvirus 8 seroprevalence in HIV-1-infected individuals in Osaka, Japan. *J Infect Chemother.* [Epub ahead of print.]

A-2

西田恭治：「オルプロロクス発売1周年講演会記録集」。2016年4月発行

西田恭治：血友病の止血治療 1) 補充療法(1) 血友病 A 「みんなに役立つ血友病の基礎と臨床 改訂3版」白幡聡、福武勝幸 編集、P.158-167、医薬ジャーナル社、2016年8月20日

西田恭治：保因者のケア「みんなに役立つ血友病の基礎と臨床 改訂3版」白幡聡、福武勝幸 編集、P.305-312、医薬ジャーナル社、2016年8月20日

白阪琢磨：HIV 感染症/エイズ「公衆衛生看護学」第2版、中央法規出版株式会社、2016年12月10日

西田恭治：座談会 血友病とエイジング「Frontiers in Haemophilia」2017年2月号 (Vol.4 No.1)、2017年3月発行

A-3

上平朝子：感染症対策への取り組み「大阪府内科医会会誌」2016年10月

光井絵理、加藤 研、安部倉竹紗、種田灯子、廣田和之、矢嶋敬史郎、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨、瀧 秀樹：HIV 感染症治療中に1型糖尿病とバセドウ病を発症し免疫再構築症候群と考えられた1例「糖尿病」2017年、印刷中。

A-4

渡邊 大：透析医療者に役立つHIV感染症の知識「医薬の門」56巻5号、P220-223、2016年11月15日。

A-5

渡邊 大：スタリビルド(R)配合錠の臨床的有用性の検討、Tenofovir based regimenの臨床的有用性「第90回日本感染症学会総会・学術講演会（ランチョンセミナー7）記録集」2016年7月発行

白阪琢磨：効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「効果的な献血推進および献血教育方策に関する研究」平成28年度研究報告書、P.6-17、2017年3月31日

白阪琢磨：HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」平成28年度研究報告書、P.6-14、2017年3月31日

白阪琢磨：近畿ブロックの HIV 医療体制整備。厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」平成28年度研究報告書、

P.38-41、2017年3月31日

白阪琢磨：ホームページやスマホを利用した検査施設受検向上に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV検査受検勧奨に関する研究」平成28年度研究報告書、P.73-78、2017年3月31日

上平朝子：大阪における検査システムの構築に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV検査受検勧奨に関する研究」平成28年度研究報告書、P.40-43、2017年3月31日

上平朝子：大阪医療センターにおけるHIV/HCV重複感染凝固異常患者の検討。厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「血液製剤によるHIV/HCV重複感染患者の肝移植に関する研究」平成28年度研究報告書、P.12-14、2017年3月31日

A-6

白阪琢磨：患者用服薬支援冊子「服薬をはじめの前に第7版」鳥居薬品株式会社、2016年8月31日

白阪琢磨：自覚症状のないうちに進行するHIV感染-感染後10年ほど潜伏し、次第に免疫力が弱まるとエイズを発症します「中学・高校保健ニュース」平成28年11月28日号、2016年11月28日

白阪琢磨：（患者を生きる：3191）感染症HIV5情報編。朝日新聞12版、平成28年12月2日号

白阪琢磨：HIV感染防止作戦若い女性への拡がり懸念。朝日新聞4版、平成28年12月9日号夕刊

白阪琢磨：（科学の扉）HIV感染を治す。朝日新聞13版、平成28年12月18日号

白阪琢磨：抗HIV薬「治療薬ハンドブック2017」株式会社じほう、2017年1月31日

B-1

西田恭治：Advocacy Leadership Symposium: Becoming a Catalyst for Change in a New Era of Hemophilia Advocacy. World Federation of Hemophilia 2016. Orlando, USA. 2016年7月24日

B-2

Yagura H, Watanabe D, Ashida M, Nakauchi T, Tomishima K, Togami H, Hirano A, Sako R, Doi T, Yoshino M, Takahashi M, Yamazaki K, Uehira T, Shirasaka T：Relationships between dolutegravir plasma-trough concentrations, UGT1A1 genetic polymorphisms and side-effects of central nervous system in Japanese HIV-1-infected patients. International Congress of Drug Therapy in HIV Infection, 24 October 2016, Glasgow, UK.

Yagura H, Watanabe D, Nakauchi T, Tomishima K, Kasai D, Nishida Y, Yoshino M, Uehira T, Yamazaki K, Shirasaka T : EFFECT OF DOLUTEGRAVIR PLASMA CONCENTRATION ON CENTRAL NERVOUS SYSTEM SIDE EFFECTS. The Annual Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections 2017, 15 February 2017, Seattle, WA.

B-3

渡邊 大 : Tenofovir based regimen の臨床的有用性 (ランチョンセミナー) 「スタリビルド配合錠の臨床的有用性の検討」。第 90 回日本感染症学会総会・学術講演会、仙台、2016 年 4 月 15 日

白阪琢磨 : HIV/AIDS の治療のトピックス。第 64 回日本化学療法学会総会、神戸、2016 年 6 月 10 日

渡邊 大 : HIV 感染患者の透析医療をはじめめるために 透析医療者に役立つ HIV 感染症の知識。第 61 回日本透析医学会学術集会・総会、大阪、2016 年 6 月 10 日

白阪琢磨 : HIV 感染症の検査と治療の現状。第 40 回日本血液事業学会総会、名古屋、2016 年 10 月 5 日

白阪琢磨 : 治療の手引き What's new。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016 年 11 月 26 日

B-4

伊熊素子、廣田和之、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨 : 新規 HIV 患者における受診およびスクリーニング検査に至る期間と転帰に関する症例対照研究。第 90 回日本感染症学会総会・学術講演会、仙台、2016 年 4 月 16 日

湯川理己、白野倫徳、市田裕之、笠松悠、後藤哲志 : 再生不良性貧血の経過中に AIDS を発症し致死的な血小板減少を来たすも救命し得た一例。第 90 回日本感染症学会総会・学術講演会、仙台、2016 年 4 月 16 日

笠井大介 : HIV 感染症患者に発症し治療に難渋した頸部リンパ節結核の 1 例。第 91 回日本結核病学会総会、金沢、2016 年 5 月 26 日

神尾咲留未、阿部憲介、近藤 旭、平野 淳、戸上博昭、矢倉裕輝、横幕能行、渡辺大、白阪琢磨、小山田光孝、伊藤俊広 : UGT1A1 遺伝子多型の dolutegravir 血中濃度に及ぼす影響—仙台医療センター HIV 症例の検討—。第 40 回国立病院総合医学会、沖縄、2016 年 11 月 12 日

杉山 文、月見知哉、田中純子、白阪琢磨 : 一般集団と HIV 感染症患者の服薬行動に関する意識調査研究。第 75 回日本公衆衛生学会総会、大阪、2016 年 10 月 26 日

Matsuzawa Y, Imai K, Baba H, Fukuoka K, Fujikura H, Furuse Y, Yukawa S, Yamamoto N, Hagiya H,

Nakamura-Uchiyama F, Akeda Y, Motomura K, Tomono K, Oishi K, U.Srirompotong, T.Panaput, R.Ruengweerayut : A case of complicated urinary tract infection at North-East Thailand. 第 57 回日本熱帯医学会大会、東京、2016 年 11 月 5 日

中内崇夫、矢倉裕輝、富島公介、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨 : HIV 感染症患者に合併したサイトメガロウイルス感染症治療におけるホスカルネットナトリウム投与時の臨床検査値の変化に関する調査。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016 年 11 月 24 日

山本雄大、上地隆史、矢嶋敬史郎、渡邊 大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨 : 多中心性キャスルマン病に類似した病状を呈して Kaposi Sarcoma Herpesvirus Inflammatory Cytokine Syndrome (KICS) が疑われた HIV 感染者の 1 例。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016 年 11 月 24 日

廣田和之、上平朝子、坪倉美由紀、田栗貴博、山本雄大、新井 剛、湯川理己、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、爲政大幾、眞能正幸、白阪琢磨 : 当院の HIV 感染者における MRSA による皮膚軟部組織感染症に関する後方視的検討。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016 年 11 月 24 日

白阪琢磨、橋本修二、川戸美由紀、日笠 聡、八橋 弘、岡 慎一、福武勝幸 : 血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 1 報 CD4 値、HIV-RNA 量と治療の現状と推移。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016 年 11 月 24 日

川戸美由紀、橋本修二、岡 慎一、福武勝幸、日笠 聡、橋本 弘、白阪琢磨 : 血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第 2 報 抗 HIV 薬の組み合わせの変更と CD4 値、HIV-RNA 量の関連性。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016 年 11 月 24 日

矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨 : 日本人 HIV-1 感染症症例におけるエルビテグラビルおよびコビスタットの血漿トラフ濃度に関する検討。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016 年 11 月 24 日

岡崎玲子、蜂谷敦子、瀧永博之、渡邊 大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南 留美、吉田 繁、小島洋子、森 治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊嶋崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、上田敦久、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡 慎一、松田昌和、重見 麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、田邊嘉也、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久 : 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向。第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016 年 11 月 24 日

上平朝子、矢倉裕輝、渡邊 大、富島公介、中内崇夫、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、西田恭治、白阪琢磨 : 当院における Dolutegravir 中

止例についての検討。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月25日

笠井大介、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、上地隆史、伊熊素子、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：当院医療従事者における HIV 陽性血液・体液曝露後の対応に関する検討。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月25日

渡邊 大、上平朝子、下司有加、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、白阪琢磨：当院の HIV 感染者における急性感染期での診断と診断前の受検行動に関する後方視的検討。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月25日

竹花 惇、岡本 学、下司有加、中濱智子、東 政美、鈴木成子、上平朝子、白阪琢磨：外来受診中 HIV 陽性者の他院受診状況に関する質問紙調査。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月25日

佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、高知 恵、岡本友子、白阪琢磨：HIV サポートリーダー養成研修7年間のまとめ。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月25日

戸上博明、矢倉裕輝、平野 淳、高橋昌明、吉野宗宏、阿部憲介、神尾咲留未、大石裕樹、竹松茂樹、垣越咲穂、山本有紀、伊藤俊広、山本政弘、水守康之、金井 修、内海 眞、渡邊 大、横幕能行、白阪琢磨：UGT1A1 遺伝子多型のドルテグラビル血中濃度に及ぼす影響に関する研究。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月26日

冨島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、伊熊素子、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨：ドルテグラビルの錠剤と簡易懸濁法による投与時の血中濃度比較。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月26日

藤原良次、橋本 謙、山田富秋、種田博之、小川良子、早坂典生、藤原 都、白阪琢磨：血液製剤由来 HIV 感染者の心理的支援方法の検討。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月26日

森 治代、小島洋子、川畑拓也、中山英美、塩田達雄、藤野真之、引地優太、俣野哲朗、村上 努、渡邊 大、松浦基夫、宇野健司、古西 満、駒野 淳：新型変異 HIV-1 の急速な病期進行と関連する病原体と宿主因子に関する解析。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月26日

椎野禎一郎、蜂谷敦子、瀧永博之、吉田 繁、近藤真規子、貞升健志、横幕能行、古賀道子、田邊嘉也、渡邊 大、森 治代、南 留美、健山正男、杉浦 互、吉村和久：国内 MSM におけるエイズ患者は伝播ネットワークのどこに多く含まれるか？。第30回日本エイズ学会学術集会・総会、鹿児島、2016年11月26日

B-6

渡邊 大、上地隆史、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨：アドヒアランス良好かつ耐性変異が無い状況下での抗 HIV 療法でも、1年間血中 HIV-1-RNA 量低下を認めなかった1例。第30回近畿エイズ研究会学術集会、神戸、2016年6月4日

矢倉裕輝、渡邊 大、富島公介、佐光留美、土井敏行、上平朝子、山崎邦夫、白阪琢磨：UGT1A1 遺伝子多型の中で*6の保有は日本人 HIV-1 感染症患者においてドルテグラビル血漿トラフ濃度が最も高値を示す予測因子である。第1回日本臨床薬理学会近畿地方会、大阪、2016年9月17日

櫛田宏幸、矢倉裕輝、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨：HIV、HBV 共感染透析症例におけるテノホビル血中濃度の推移。日本感染症学会東日本地方会学術集会、新潟、2016年10月27日

湯川理己、山本倫久、河原隆二、萩谷英大、吉田寿雄、明田幸宏、朝野和典：大阪府北摂地域における CRE スクリーニング調査－CRE 保有リスク因子に関する検討－。第86回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会・第64回日本化学療法学会西日本支部総会、那覇、2016年11月25日

吉田寿雄、湯川理己、山本倫久、河原隆二、萩谷英大、明田幸宏、朝野和典：大阪府北摂地域における CRE スクリーニング調査－CRE 陽性者の追跡調査－。第86回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第64回日本化学療法学会西日本支部総会、沖縄、2016年11月26日

山本倫久、河原隆二、萩谷英大、吉田寿雄、明田幸宏、湯川理己、朝野和典：大阪府北摂地域における CRE スクリーニング調査－想定外の蔓延から考える今後の感染防止対策について－。第86回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第59回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第64回日本化学療法学会西日本支部総会、沖縄、2016年11月26日

B-7

渡邊 大：HIV 長期治療における薬剤耐性～耐性を起こすリスクの高い患者像～。HIV Web Conference、2016年5月11日

西田恭治：保因者健診のすすめ－まずは医療者の認識から－。第19回九州血友病研究会、福岡、2016年6月4日

渡邊 大：HIV 感染症で期待される病診連携と課題。平成28年度 HIV 医療研修会（大阪府医師会主催）、大阪、2017年1月18日

渡邊 大：プレジコビックス®の臨床経験。New era of PI regimen in HIV/AIDS 2017、東京、2017年2月11日

渡邊 大：長期療養と高齢化を見据えた TAF 製剤の役割。デシコビ®配合錠発売記念講演会

in 大阪、大阪、2017年3月11日

渡邊 大：HIV感染症で期待される病診連携と課題。平成28年度HIV地域医療連携研修会（大阪府医師会主催）、大阪、2017年3月30日

西田恭治：血友病とHIVの歴史展開と今後の課題について。北海道HIV/AIDS歯科医療研究会、札幌、2017年2月18日

B-8

白阪琢磨：HIV/AIDS医療の現状と当院の役割。新入職者オリエンテーション、大阪、2016年4月1日

西田恭治：保因者健診のすすめーそこから学ぶ保因者としての自覚ー。九州ブロック医療相談会、大分、2016年4月3日

西田恭治：お父さんも一緒にやろう！血友病治療。Baxweb 2016公開セミナー、東京、2016年4月17日

西田恭治：イロクテイトの使用経験。学術講演会「半減期延長FVIII製剤の実臨床と課題」、大阪、2016年4月23日

白阪琢磨：概論。平成28年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2016年5月19日

白阪琢磨：HIV/AIDS基礎知識～医療と最新の治療について。大阪府平成28年度HIV/AIDS基礎研修、大阪、2016年5月27日

渡邊 大：HIV感染症の診断。平成28年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2016年6月2日

西田恭治、保因者健診のすすめーまずは医療者の認識からー。第19回九州血友病研究会、福岡、2016年6月4日

伊熊素子：抗酸菌症。平成28年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2016年6月9日

廣田和之：CMV感染症。平成28年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2016年6月9日

白阪琢磨：HIVの最新治療。厚生科研エイズ対策研究事業第12回HIVサポーターリーダー養成研修、大阪、2016年6月10日

笠井大介：講義「新興再興感染症」。兵庫医療大学、神戸、2016年6月13日

笠井大介：PCP。平成 28 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2016 年 6 月 16 日

上地隆史：KS、HIV 脳症、PML。平成 28 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2016 年 6 月 23 日

上平朝子：女性と HIV。平成 28 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2016 年 6 月 23 日

西田恭治：薬害エイズ。平成 28 年度大阪大学医学部環境医学・公衆衛生実習、大阪、2016 年 6 月 30 日

西田恭治：血友病保因者の諸問題ーそこから学ぶ保因者としての自覚ー。第 18 回北海道へモフィリアケアセミナー、札幌、2016 年 7 月 2 日

白阪琢磨：HIV 陽性者の人権課題～HIV、AIDS 等の現状と課題～。大阪府人権総合講座 人権相談員養成コース、大阪、2016 年 7 月 5 日

笠井大介：日常診療で使える HIV 感染症の基礎知識。摂津医誠会病院院内講演会、大阪、2016 年 7 月 5 日

白阪琢磨：ゲンボイヤ配合錠の有効性・安全性。ゲンボイヤ配合錠発売記念 WEB 講演会、東京、2016 年 7 月 8 日

渡邊 大：ゲンボイヤ配合錠について。ゲンボイヤ配合錠発売記念 WEB 講演会、大阪、2016 年 7 月 8 日

笠井大介：HIV/AIDS の基礎知識（HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療）。平成 28 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2016 年 7 月 25 日

笠井大介：HIV/AIDS 患者の背景、薬害エイズについて。平成 28 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2016 年 7 月 25 日

白阪琢磨：HIV 感染症および性感染症の現状と対策。造血器疾患と感染症セミナー、徳島、2016 年 8 月 2 日

白阪琢磨：HIV 感染症のパラドックス 早期発見と高齢化に伴う諸問題と対策。宮城県 HIV/AIDS 学術講演会、仙台、2016 年 8 月 6 日

西田恭治：女性と血友病。へモフィリア友の会・ケアーズ 2016 夏合宿研修、和歌山、2016 年 8 月 6 日

上平朝子：CRE の感染対策。平成 28 年度第 20 回関西感染症フォーラム、大阪、2016 年 8 月 7 日

笠井大介：HIV/AIDS の基礎知識（疾患・治療・職務感染時の対応）。厚生労働行政推調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、大阪、2016 年 8 月 28 日

西田恭治、血友病個別化医療の課題と対策—時代に取り残されないために—。熊本血友病カンファレンス 2016、熊本、2016 年 9 月 2 日

渡邊 大：HIV/AIDS の基礎知識（HIV 感染症・抗体検査・日和見疾患・治療）。平成 28 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2016 年 9 月 5 日

西田恭治：HIV/AIDS 患者の背景、薬害エイズについて。平成 28 年度 HIV/AIDS 看護師研修初心者コース、大阪、2016 年 9 月 5 日

白阪琢磨：HIV/AIDS 診療の最前線から感染予防対策まで。紀和病院 院内講演会、和歌山、2016 年 9 月 8 日

白阪琢磨：HIV/AIDS の基礎知識（疾患・治療・職務感染時の対応）。厚生労働行政推調査事業費補助金エイズ対策政策研究事業主催訪問看護師研修会、大阪、2016 年 9 月 10 日

白阪琢磨：HIV/エイズの基礎知識と施設での受け入れについて。大阪府高齢者等介護施設のための HIV/エイズ研修会、大阪、2016 年 9 月 21 日

西田恭治：保因者健診のすすめ—まずは医療者の気付きから—。LASER in SHIKOKU CHUGOKU～Long-Acting Drugs for Severe Hemophilia Raise QOL of Patients～、広島、2016 年 9 月 25 日

白阪琢磨：疫学と抗 HIV ガイドライン。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 26 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 26 日

西田恭治：血友病診療・血液凝固剤の使い方。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 26 日

渡邊 大、矢倉裕輝：初回抗 HIV 療法の実際。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 26 日

笠井大介：日和見感染症診断（PCP）。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 27 日

廣田和之：日和見感染症診断（CMV）。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 27 日

日

伊熊素子：日和見感染症診断（抗酸菌症）。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 27 日

上地隆史：症例検討（医師・薬剤師向け）。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、平成 28 年 9 月 27 日

上平朝子：針刺し暴露後対策。平成 28 年度 HIV 感染症研修会、大阪、2016 年 9 月 27 日

上平朝子：感染症対策への取り組み。大阪府内科医会定例学術講演会、大阪、2016 年 9 月 29 日

渡邊 大：HIV 急性感染。平成 28 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2016 年 9 月 29 日

上平朝子：免疫再構築症候群（IRIS）。平成 28 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2016 年 9 月 29 日

笠井大介：日和見感染症診療（カンジダ症・クリプトコッカス症他）。平成 28 年 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2016 年 9 月 30 日

西田恭治：パネルディスカッション「日本における血友病医療の今後の課題」。バイエルヘモフィリアセミナー 2016、大阪、2016 年 10 月 1 日

渡邊 大：抗 HIV 療法の変更と薬剤耐性。平成 28 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2016 年 10 月 3 日

上地隆史：日和見感染症診療（HIV 脳症、PML）。平成 28 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2016 年 10 月 3 日

伊熊素子：女性と HIV。平成 28 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2016 年 10 月 4 日

上平朝子：HIV 感染症の基礎知識。平成 28 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2016 年 10 月 4 日

廣田和之：STD（性行為感染症）の診断。平成 28 年度 HIV 感染症医師実地研修会（1 ヶ月コース）、大阪、2016 年 10 月 5 日

笠井大介：HIV と呼吸器感染症。平成 28 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2016 年 10 月 5 日

渡邊 大：HIV 感染症の診断。平成 28 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2016 年 10 月 6 日

上地隆史：KS、HIV 脳症、PML。平成 28 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2016 年 10 月 6 日

白阪琢磨：HIV の最新治療。厚生科研エイズ対策研究事業 第 13 回 HIV サポートリーダー養成研修、大阪、2016 年 10 月 7 日

西田恭治：血友病診療。平成 28 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2016 年 10 月 7 日

白阪琢磨：HIV 感染症の疫学。平成 28 年度奈良県立医科大学健康政策医学実習、大阪、2016 年 10 月 7 日

白阪琢磨：近畿エイズブロック拠点病院の診療の現状と今後。第 201 回 HIV カンファレンス、名古屋、2016 年 10 月 11 日

上平朝子：CRE アウトブレイクの現状と対策。東近江総合医療センター ICT 研修、滋賀、2016 年 10 月 20 日

西田恭治、血友病領域の世界的潮流 –2016 年 WFH（世界血友病連盟）世界大会からの報告一。Hemophilia Long Acting Commitment～血友病最新情報 WEB セミナー～、大阪、2016 年 10 月 21 日

西田恭治：血友病と薬害エイズの歴史展開と今後の課題について。平成 28 年度エイズ診療拠点病院近畿ブロックソーシャルワーク研修会、大阪、2016 年 10 月 29 日

西田恭治：血友病保因者の諸問題－医療者は気付きを、保因者は自覚を－。第 21 回新潟血友病フォーラム&患者相談会、新潟、2016 年 11 月 5 日

白阪琢磨：ライフスタイルの変化に応じた服薬設計。HIV Web Conference、大阪、2016 年 11 月 9 日

白阪琢磨：HIV/エイズやハンセン病などの感染症と人権について。大阪市平成 28 年度人権問題研修（管理者層）、大阪、2016 年 11 月 11 日

笠井大介：日和見疾患の病態と治療（ニューモシスチス肺炎・HIV 脳症・サイトメガロウイルス網膜炎）。平成 28 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2016 年 11 月 14 日

上平朝子：HIV 陽性妊婦の治療と支援。平成 28 年度 HIV/AIDS 看護師研修応用コース、大阪、2016 年 11 月 14 日

廣田和之：インフルエンザについて。院内講演会「インフルエンザの感染防止対策」、大阪、2016年11月18日

白阪琢磨、下司有加、岡本 学：HIV感染症と看護・介護上の標準予防策の実際。医療法人敬仁会 今里胃腸病 HIV感染症研修、大阪、2016年11月18日

白阪琢磨：HIV感染症・治療。大阪赤十字看護専門学校「成人看護学IV援助論4」講義、大阪、2016年12月1日

上平朝子：大阪医療センターにおける CRE アウトブレイクの現状と対策。徳島赤十字病院院内講演会、徳島、2016年12月6日

白阪琢磨：抗HIV治療の進歩と院外調剤薬局に期待すること。第1回関西 HIV・薬剤 Workshop、大阪、2016年12月10日

白阪琢磨：HIV/AIDSの現状と支援。大阪府立大学 公衆衛生看護学 I、大阪、2017年1月19日

西田恭治：血友病保因者の諸問題－相談を受けた時に備えて－。ネットワーク医療と人権 2016年度相談事業 患者・家族担当相談員研修、大阪、2017年1月29日

西田恭治、血友病と HIV の歴史展開－そこから学ぶ今後の課題－。第13回北海道 HIV/AIDS 歯科医療研究会、北海道、2017年2月18日

笠井大介：HIV/AIDSの基礎知識（疾患・検査・治療）。平成28年度 HIV/AIDS 訪問看護師研修会、大阪、2017年2月18日

西田恭治：血友病と HIV の歴史展開－そこから学ぶ今後の課題－。平成28年度奈良県エイズ中核拠点病院研修会、奈良、2017年2月21日

西田恭治：血友病保因者の諸問題－医療者は気付きを、保因者は自覚を－。第28回静岡県血友病治療連絡会議－ヘモフィリア講演会－、静岡、2017年2月25日

B-9

白阪琢磨：性感染症について。FM大阪ラジオ「HIV/AIDS啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2016年4月2日

笠井大介：「HIV/AIDSの検査・予防・啓発について」「新薬や、未来への展望、LGBTについて」。FM大阪ラジオ「HIV/AIDS啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2016年6月11、18、25日、7月2日放送

白阪琢磨：公開授業「HIV/AIDSについて」（大阪市内公立学校中学3年生対象）。FM大阪ラジオ「HIV/AIDS啓発プロジェクト LOVE+RED」、大阪、2016年8月6、13、20日

白阪琢磨：HIV 感染症。朝日放送ラジオ「健やかライフ」、大阪、2016 年 10 月 17-21 日

白阪琢磨：HIV 感染について解説。読売テレビ「ウェークアップ！ぷらす」、大阪、2016 年 12 月 3 日